



心を開いて相手の心に近づく

生徒10力条 その⑥

大きな声であいさつ、丁寧な言葉遣い

横堤中学校生徒10力条がすべてできればすごいことだと4月にみんなに伝えました。その後、この10力条が単なる言葉や飾りにならないように一つ一つより具体的にみんなに伝えようと全校集会や「止まり木」で紹介してきました。今日はその6番目のあいさつについて全校集会でお話ししました。



心を開いて相手の心に近づくとはあいさつのことです。あいさつ（挨拶）の「あい」には、心を開くという意味、「さつ」には、その心に近づくという意味があります。要するに、あいさつとは、自分の心を開くことで、相手の心を開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為のことです。

みんなは「あいさつ」が自然にできていますか？挨拶は「あなたの存在を見つけました。よろしくお願ひします」という人間関係をスタートさせるためのコミュニケーションの第一歩といえます。相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めてするのが挨拶の基本です。また、挨拶のしかたによって、常に自分や学校、所属クラブが評価されていることを忘れてはいけません。そこであいさつの4か条を以下に示します。



『あいさつの4ヶ条』は、頭文字が「あ」「い」「さ」「つ」で始まります。

「あ」：明るく、温かく

あいさつの「あ」は、あいさつをする上での大前提、大原則と言っても過言ではないでしょう。

「い」：いつでも、誰にでも

わたしたちはつい、知っている人だけにあいさつをしがちですが、思いがけないつながりを持つためにも、いつでも、誰にでも、積極的にあいさつをしておきたいものです。

「さ」：先に、すすんで

あいさつは人より先に行なうことが大切とされています。先にあいさつをするということは、相手よりも早く好意を示すことです。

「つ」：続けて、次の言葉を

あいさつの「つ」には二つの意味があります。一つは、「挨拶という行為を続ける」ということです。あいさつは一度きりではなく、続けることが大切です。もう一つは、「あいさつに次の言葉を加える」です。「次の言葉」とは、相手との会話を続けるための言葉です。「おはよう、今日は暑いね～」「こんにちは。あ、昨日はありがとう！」のように、あいさつの後にプラスαの言葉を続けることで、相手とのコミュニケーションがより活発になります。以上が、あいさつの4ヶ条（「あ」「い」「さ」「つ」）です。

さあ！心を開き、相手を敬う気持ちを忘れず、学校中に明るい挨拶の声が響き渡るようにしていきましょう。